

## 放課後等デイサービス 楽子大高 自己評価表

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>		活動内容によって使用する部屋を分ける等の工夫をしている。
	②	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>		利用児3人につき職員1人の人員配置を実施。安全を第一に考えた活動プログラムにしている。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	<input type="radio"/>		職員会議前に、環境チェックの時間を設け、次の会議までに改善できるように努めている。
業務改善	④	業務改善をすすめるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>		行事やプログラム等の活動について、日々の業務の振り返りと反省を職員会議で行っている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>		保護者向けアンケートを実施し、職員の資質向上、運営の向上に努めている。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	<input type="radio"/>		ホームページで公開している。評価結果を職員会議で周知し、業務改善につとめている。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		<input type="radio"/>	今後実施できるよう努めていく。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>		外部での研修の資料の読み合わせ、職員会議で虐待や支援方法についての検討を行っている。
適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	<input type="radio"/>		支援計画作成のための面談、送迎時の連絡や連絡帳で、利用児の課題や保護者のニーズを把握し、支援計画に反映させている。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	<input type="radio"/>		今年度から、利用者の家庭環境や発達について把握し、支援計画や療育に反映させるため「サポートブック」を配布し、提出して頂いている。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>		専門性を持った職員が中心となり、2人以上のチームで行うようにしている。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>		利用児がやりたいプログラムや食べたいおやつを提案しやすいように掲示板を作り、活動内容に反映している。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	<input type="radio"/>		季節や、平日と土曜、または長期休暇に合わせた支援を心がけている。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>		利用児の個別の発達状況に合わせて個別活動と集団活動の課題について検討し、計画を作成している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		<input type="radio"/>	送迎前の時間を使って活動の打ち合わせができるよう心掛けている。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<input type="radio"/>		利用児の活動の様子、活動内容を記録している。申し送り事項等、報告・連絡・相談を心がけている。

	⑰	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	その日の療育担当者が記録を書き、次の日の療育前に確認している。記録記入システムを導入し記録しやすくしている。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○	毎月モニタリング報告書を作成すると共に、毎月の職員会議で個別の利用児の状況を報告し合い情報共有に努めている。
	⑲	ガイドライン総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行なっているか	○	ガイドラインをより徹底して職員に周知していく。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	相談支援事業所のサービス担当者会議に児童発達支援管理責任者と担当者が参加し、支援の資質向上に努めている。コロナ感染拡大期により不十分な面があった。
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	必要に応じて連絡を取り合いながら、連携した支援を行えるよう努めている。コロナ感染拡大期により不十分であった。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連携体制を整えているか	○	初めて利用を受け入れた。課題は多い。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○	保護者からの聞き取りや、他機関との連絡、面談により情報共有と相互理解に努めているが、コロナ感染拡大期により不十分で面があった。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○	該当しない。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○	コロナ感染拡大期により不十分であった。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○	今後活動プログラムに放課後児童クラブや児童館との交流の場を作っていく課題があるが、コロナ感染拡大期により不十分であった。
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○	参加に努めている。コロナ感染期により不十分であった。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○	事業所での活動内容や利用児の様子などは、おたよりを発行し、日々の出来事は連絡帳に記載。送迎時にも伝えている。また、面談により家庭と連携をしている。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○	個別面談、連絡帳や電話による相談対応を行なっている。必要に応じて、職員会議で家庭や保護者の対応力についての個別課題について検討している。

保護者への説明責任等	③⑩	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	契約時、楽子名和の「しおり」の読み合わせを行い、丁寧な説明を心がけ、その後も年度変わりにオリエンテーションを行い、繰り返し伝える機会を得ている。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	相談を受けた際には必要な助言や支援を常に行っている。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○	今後実施できるよう努めていく。コロナ感染拡大期により不十分であった。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	職員会議の議題として取り上げ、検討や改善を行っている。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○	毎月、活動内容や連絡事項等が書かれた「らっこなわだより」を発行している。
	③⑮	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○	個人情報や個別ファイル等は施錠した保管庫にて管理し、取り扱いには十分に注意している。
	③⑯	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	利用児、保護者共に意思疎通、情報伝達のために細心の注意を払い、丁寧なフォローをしている。
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○	今後改善につとめていく。コロナ感染拡大期により不十分であった。
非常時等の対応	③⑱	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○	マニュアルを作成し、職員に周知している。保護者に向けてはその都度お手紙等で発信している。
	③⑲	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	毎月10日を防災の日とし、避難訓練や防災の絵本や紙芝居の読み聞かせをしている。
	④⑰	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○	日頃から職員に個別事例を通じ教育している。また、外部の研修会等への参加、職員会議の中で虐待防止委員会を設置し、虐待防止について徹底するよう努めている。
	④⑱	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行なうかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○	個別支援計画書に身体拘束をする場合の提示を行い、保護者へ説明し、同意を得ている。

④②	食物アレルギーのある子供について、医師の診断書に基づく対応がされているか	○	サポートブックと合わせて「アレルギー対応表」を配布し、アレルギーの有無、食事やおやつを提供方法について確認している。
④③	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○	毎日業務終了時にヒヤリハットについて検討している。職員会議でヒヤリハットについて共有し、改善方法について検討している。